

## 審美性と予知性のためのインプラント周囲の軟組織外科的マネジメント

### Soft tissue surgical management around implant for esthetics and predictability



**Kotaro Nakata**  
**中田光太郎**

医療法人社団 洛歯会 中田歯科クリニック

インプラント周囲の外科的軟組織マネジメントの目的は、インプラント周囲軟組織を外科的にコントロールし、その形態、量を周囲組織と調和させ審美的な結果に寄与し、さらに健康な周囲組織を獲得することでインプラントそれ自体の予知性を高めることにある。1990年代後半より臨床症例報告が数多くなされ、近年科学的な検証論文によりその有効性が広く認められるようになってきた。Thomaらは、レビューの中でインプラント周囲の軟組織増生処置は有効な処置である、とし、その際に用いる組織は自家上皮下結合組織が推奨されるとしている。

科学的根拠を示す一例を挙げると、Schneiderらは、インプラント埋入と同時にGBRを行い、6ヶ月後のリエントリー時に軟組織増生を行い、それぞれの増生効果を光学印象によるサーフェススキャンを用いて得たデータを重ね合わせて評価した。それによれば最終的な唇側の増生において、GBRつまり硬組織が貢献した割合が57%、軟組織によるそれが43%であったとしている。インプラント周囲組織への造成術は従来の硬組織から、必要に応じて硬組織、軟組織またはその両方を造成し、その予知性・審美性に寄与する時代へと変遷してきた。臨床的に効果があると示されてきたものが、多くの文献により近年その有効性が支持されつつある。しかしながらまだ十分なレベルではなく、臨床的には治療結果の予測が困難な症例に遭遇することもある。したがって、現状では十分な診断と処置選択の慎重な姿勢が望まれる。そこで今回様々な治療のタイミングでインプラント周囲軟組織へ外科的介入を行った症例を例示し、結果を出すための要件を提示するつもりである。

#### 【略歴】

1990年 福岡県立九州歯科大学卒業

1994年 医療法人社団洛歯会 中田歯科クリニック開設

2009年 同 デンタルクリニックタカンナ開設

#### 【現在】

京都府立医科大学 大学院医学研究科／医学部医学科 客員教授

ITI (International Team for Implantology) Fellow

日本顕微鏡歯科学会 指導医

日本口腔インプラント学会 専門医

日本臨床歯周病学会 認定医